

会議録

会議の名称	第4回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成25年12月12日(木曜日) 午後6時30分～8時30分
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 5階502会議室
出席者	委員：伊村委員(委員長)、伊藤委員(副委員長)、工藤委員、鶴野委員、土方委員、井手委員、志村委員 事務局：協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、教育指導課、株式会社エックス都市研究所
報告事項	(1)「いこいーなの地域いーな通信 第6号」発行について (2) (仮称) 地域協議体・南部モデル地区について 1.第1回会議について 2.第2回会議～モデル事業「ワークショップ防災」～について (3) モデル事業「迷惑電話チェッカーを活用した実証実験」の実施状況
議題	1 (仮称) 地域協議体・南部モデル地区会議の進め方について 2 「地域コミュニティに関するシンポジウム」(案) について 3 自治会・町内会 個人情報の取扱い手引き(案) について
会議資料の名称	資料 いこいーなの地域いーな通信(第6号) 資料1-1 (仮称) 地域協議体・南部モデル地区 参加者一覧表 資料1-2 (仮称) 第1回南部モデル地区会議の実施状況について 資料2 第2回(仮称) 地域協議体・南部モデル地区会議(ワークショップ防災) 意見概要 資料3 (仮称) 地域協議体・南部モデル地区会議の進め方について 資料4 地域コミュニティに関するシンポジウム」(案) について 資料5 自治会・町内会 個人情報の取扱い手引き(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
1 開会	事務局： 第4回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。 議題の確認 次に、資料の確認をさせていただく。 会議資料の確認
2 報告事項	

委員長：

事務局より報告事項についての説明をお願いしたい。その前に、議会関連で報告があるということで、事務局よりご報告願いたい。

事務局：

現在も議会が開催されているが、地域コミュニティについて議員からいくつか質問が出ている。答弁では、南部のモデル事業の進捗状況、ワークショップなどの報告を行った。また、自治会・町内会向けの補助金の創設についての進捗状況の説明を行った。

検討委員会での検討を含め、地域コミュニティの再構築を図っていくことについては、議員も応援してくれている状況である。

報告事項（１） 「いこいーなの地域いーな通信 第６号」発行について

事務局：

いこいーな通信の内容については、検討委員会が開催された旨、及びモデル事業、７月に実施した自治会・町内会懇談会の内容を載せている。配布先については、自治会・町内会、小学校や警察署・消防署などである。

委員長：

町内会・自治会の加入について、何か動きがあったか。

事務局：

11月の市民祭りにおいて、ブースを設けて、自治会・町内会の活動についての展示と加入促進のPRを行ったところ、後日２件ほど連絡があり、その内１件は自治会・町内会をご紹介することができた。

委員長：

ほかにご意見はあるか。なければ、報告事項２について事務局から説明いただきたい。

報告事項（２）（仮称）地域協議体・南部モデル地区について

1.第１回会議について

事務局：

11月14日に実施された第１回会議では、参加していただいた方の自己紹介をしていただき、各団体の活動状況や問題点などを話していただいた。

参加された方の意見をいくつかご紹介する。「このような会議が開催されて有意義である」「協力して高齢者を見守っていくことが重要である」「若い人がなかなか地域活動に参加して来ない」「他の団体と連携を図っていききたい」などの積極的なご意見を頂いている。

多くの自治会からは、住民の高齢化を問題点として挙げられたが、地域包括支援センターからは、地域と連携して高齢者を見守っていききたいといった意見も挙げられた。『団体同士が連携していくこと

が課題である』との認識のもと第1回の会議が終了した。

委員長：

私も第1回と第2回に参加させていただいた。資料1-2にキーワードが書いてあるが、どの組織・グループも同じような悩みを抱えているという意見が出された。

委員の中からも会議にご参加されている方もいらっしゃるので、意見を伺いたい。

委員：

検討事項、課題を絞って実施していく必要があるのではないかと思った。検討事項や課題を絞って、たたき台を作っていくことが重要であることがわかった。

南部地区が軌道に乗れば、残りの3地区もうまくいくのではないかと思う。南部地区の進め方次第で残りの地区の成否が分かれるため、極めて大切な会議ではなかったかと思う。

委員：

会議に参加した自治会の方の地域が、新町3丁目から5丁目までに偏っていると感じた。

北東部地区・南部地区など4地区の区分が広すぎるのではないかと感じてしまった。地区が広い分、課題が分散してしまうのではないかという感じがした。南部地区の協議体をさらに協議体内部で分けて運営をしていかないといけないのではないかと感じた。

委員長：

もともと4地区は広すぎるのではないかという話があったが、将来はもう少し絞っていきたいが、まずはモデル地区としてやるだけやってみようということをやっている。広いという印象を受けたと感じているようだが、その点については、ある程度想定していたことである。

副委員長：

確かにエリアは広いと感じた。1回目で問題点を、2回目で防災をキーワードに議論したが、参加された方々はいろいろ問題を抱えていると感じた。

エリアだけではなく、議論の内容も細分化していかないと、何を話しているのかわからなくなる。福祉や交通安全などの議論のテーマを小さくしつつ、エリアについても小さくしていかないと問題解決にならないのではないかと感じた。

委員長：

ほかにご質問などはあるか。あと1回やって年度内は終了か。

事務局

年度内にもう1回ある。次年度も継続する。

2.第2回会議 モデル事業「ワークショップ防災」～について

事務局：

第2回目は、ワークショップ防災を実施した。関係者を自治会グループと学校グループ、行政グループなど4つにわけ、それぞれの立場から地震が起きた時の行動について、震災時、震災直後、震災から3日間という時系列で議論をしていただいた。

ワークショップでは、グループディスカッションを通じて、団体同士の交流やそれぞれの動き、震災時には、地域と団体とが連携して、安否確認、物資の確保などを行うことの重要性を再確認しあったものとなった。

委員長：

内容は防災をテーマに実施した。当委員会とモデル事業との関係でいえば、モデル事業がうまくいくかどうか、今年度及び来年度で成果を上げていけるかどうか、委員会としてはその推移を見守っていくことだと思う。

このワークショップについて何か意見はないか。

委員：

協議体をつくるワークショップだから、もう少し、南部地区全体に共通するような問題とそうでない問題をテーマにするとよい。おそらく協議体の課題は、あるエリアに限定した課題が多いはずである。地域で共通ではないような課題をワークショップでテーマとして取り上げることで、協議体の意義が見えてくるかもしれない。

委員：

東日本大震災の実態を見て、防災が課題の中心になっていくと思う。

災害時、消防署は様々な活動を行うため、消防団がいらないといけない。また、避難した後の防犯の問題もある。したがって、防災・防犯を中心にテーマを絞った方がよいのではないかと思う。あまりテーマを広げると混乱してしまうのではないかと思う。

災害が起きた時、自治会としてどのような対応ができるのか、学校との役割の整合性を図っていかないといけないと思う。

荒屋敷には昔ながらの大きな自治会があるが、新しく移ってきた住民は、小さい自治会を作る。昔ながらの自治会と新しい自治会との連携をどうとるかということも課題だと思う。

町内会・自治会との連携、学校の団体との連携が今後必要になってくると思う。団体がいくつもあるので、連携は必要であると認識している。

社会福祉協議会でも防犯パトロールを実施している。そうした動きを一つになってやっていければと思う。

委員長：

ワークショップについては、参加者の団体の性質ごとで分かれてもらったが、今度は地域でまとまって立場の違う人がグループを組んでワークショップを行うこともよいのではないかと思う。

小学校の先生にお話を聞くと、学校ではマニュアルができていうことだが、たとえば、防災倉庫の鍵は学校側が持つのか、地域と両方で持つのかといった学校側と地域とのコミュニケーションが

とれているのかどうか重要になると思う。

委員長：

重複している組織は整理したいという思いもある。様々なことを行っていることをいい意味で整理していかないと、今後大変になっていくのではないか。

一度にスリム化は無理だが、徐々に整理できるところからできるといい。

副委員長：

はじめ、議論するテーマは分散化したほうがよいと思ったが、防災をテーマに掘り下げた方がよいと思う。避難所運営会議について、立ち上がったばかりで、今度どうなるか分からない中で、話し合えば、それぞれ勝手に問題が解決されるかもしれない。

委員：

第四中学校の避難所運営会議のマニュアルはすべてできているが、避難所について、地区の方々がよく知らない。しっかり知らせることが重要である。ただし、その方法が見当たらない。

学校の組織と住民の組織とのつながりがいい。だから協議体が必要だと思う。

委員長：

シンポジウムが計画されているので、そのあたりで PR することになるかも知れない。

委員：

住民は避難所をご飯が食べられる、水が使える、雨が降っているときは屋内に入れるといった程度にしか思っていない。実際、屋内には入れない。

避難訓練で、避難所に行くときは、A4 の用紙 1 枚に身元を記入しないといけない。しかし、混乱しているときには、記入する余裕などない。だから、前もってそうした用紙を配っておくぐらいのことがあってもいいと思う。

委員長：

後の議題に含めて考えてみたらどうか。

委員：

地域包括支援センターからも 3 名参加させてもらったが、とても面白かったと言っていた。高齢者福祉関連のつながりはあるが、子ども関連やそれ以外の方々との交流はなかなかない機会だった。

地域協議体のテーマとして、防災しかないのではないかと思う。防災であれば、どの分野の方でも引かかるテーマである。それを掘り下げていくことが重要なのではないかと思う。

報告事項 (3) モデル事業「迷惑電話チェッカーを活用した実証実験」の実施状況

事務局：

迷惑電話チェッカーを9月30日まで募集をかけ、169名の方にモニターになっていただき、平成26年9月末までモニター活動をしてもらうことになっている。

今後のスケジュールとして、1月に第1回のアンケートを実施し、7月に第2回のアンケートを実施する予定である。防犯の取組としての効果を聞きたいと考えている。

委員長：

事務局の説明について、何か意見はないか。なければ、議題に移りたい。

議題1 (仮称) 地域協議体・南部モデル地区会議の進め方について

委員長：

まず、議題(1)について事務局から説明願いたい。

事務局：

資料3について説明

委員長：

次回の委員会に用意してほしいものがある。市の各セクションが市民にどのようなことを投げかけているかをマトリクス表で示したものがあつたかと思う。そのマトリクス表を参照しながら、今回参加していただいた組織がどこに属するのかをチェックしてもらいたい。また、保育分野や消防団を加えた最新版を作っておいてほしい。それを見て、来年度の進め方を精査したい。

テーマについても、防災をテーマに地域で考えていくような方向がよいのではないかと思う。

また、行政についても各分野の方に声をかけなおして出てきてもらいたいと思う。

委員：

協議体のモデル事業を行う際に、自治会にはどう呼びかけを行っているのか。

事務局：

すべての自治会に通知文を送っており、その中で参加意向を示した自治会が参加されている。

委員：

協議体が何をやるのかがわからないので、参加しないのではないかと思う。どのようなメリットがあるのかをしっかりと伝えることが重要なのではないかと思う。

委員長：

シンポジウムでPRしつつ、協議体参加者の新規募集を行ったらどうか。

ほかに意見があるか。なければ次の議題に移りたい。

議題2 「地域コミュニティに関するシンポジウム」(案) について

委員長：

それでは、議題 2 について事務局より説明いただきたい。

事務局：

資料 4 について説明

委員長：

資料 4 について説明があったが、何か意見はないか。ここで決めないといけないことはないか。

事務局：

候補日として、いくつか挙げているが、委員会のメンバーが多く参加できる日に決めたいと思う。場所の候補としては、市民会館を考えている。

委員の方々に出欠表を回して確認したいと思う。

委員長：

危惧するのは、テーマがバラけるのではないかとということ。できれば、会場に来ている方に「うちの自治会も参加したい」と思わせるような次につながるようなものにしてほしいと思う。

事務局：

場所や日時、テーマについては、第 3 回の協議体の会議前には決めたいと思う。

議題 3 自治会・町内会 個人情報の取扱い手引き（案）について

委員長：

それでは、事務局より説明いただきたい。

事務局：

資料 5 及び 6 について説明

委員長：

資料 5 について、意見はないか。

委員：

基本的な考え方として、漏らしてはいけない、漏らしては困るというよりは、活動するために個人情報を活用していこうという視点が大切なのではないかと思う。情報を隠すことが目的なのではなく、活用することで私たちの生活が豊かになるという形で、過度に恐れずにお互い情報を出し合っていこうという面を出した方がよいのではないか。

委員長：

書き方のトーンを再考したほうがよいと思う。

また、問い合わせについて、いきなり西東京市の外の部門が記載されている。協働コミュニティ課を先頭にし、より情報を確認したい場合は、東京都などに問い合わせるような構成にすべきである。

そのほか、表紙がこれまでと同じようなデザインになっているので、文章のフォントなどあわせるべきである。

事務局：

自治会向けの補助金制度を検討している。自治会名簿が申請書類で必要になる。また有事の際の安否確認などにも必要である。名簿作成に有意義に活用できるよう、今回このような冊子を作成することになった。

委員：

補助金は来年度から交付予定なのか。交付にあたって要件をしっかりと決めておく必要があるのではないか。規約がない自治会も多い。規約がないのは目的がない。目的がないのは自治会としてはよくない。輪番制でやっているところは、規約がないところが多い。「規約を作りましょう」ということを言うていくことが大切だと思う。

委員長：

本来ならば、この冊子はガイドブックの中に入れるべきである。将来的には一冊にしたほうがよいのではないかと思う。

事務局：

ガイドブック更新の際には、個人情報の章を設けることにする。

委員長：

自治会において個人情報に関することで困っていることはないか。

委員：

特に困っていることはない。大きい自治会だとあるかも知れない。かつて任意で電話番号入りの名簿を作ったが、会員の99パーセントが名簿作成に賛同した。

4. その他

委員長：

次回の検討委員会は、事務局で調整いただければと思う。